

科目名	材料強度学 Strength & Fracture of Materials			担当教員	岡田憲司		
学 年	5 年	学 期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分 野	専門	授業形式	講義	科目番号	15131045	単位区分	履修単位
学習目標	1. 静的強度と破壊力学は基礎的事項を理解する 2. 疲労強度について、演習を行いながら理解する。 3. 材料強度の統計的性質について演習を行いながら理解する。						
進め方	講義の後半に演習を多く取り入れ、これによって理解を深められるように進めたい。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 静的荷重下での変形と強度、破壊（4） （1）変形と強度 （2）破壊 2. 疲労強度（10） （1）疲労に関する研究の歴史（1） （2）歴史的に有名な疲労事故の例（1） （3）疲労の基礎（4） （4）疲労き裂成長（4）			金属材料を中心として、外部から静的な負荷を受けた金属材料の変形と強度および破壊について理解できる。 「疲労」に関する専門知識を習得するにあたり、「疲労」が工業社会で重要視されるようになった歴史的背景や、有名な疲労による事故例の紹介、および疲労の発生メカニズム、疲労試験方法とS-N線図の求め方、疲労限度の推定方法などを理解できる。 学習・教育目標との関連（B-2）[B-2]			
	[後期中間試験]（2）						
	3. 破壊力学概説（4） （1）き裂先端の応力場と応力拡大係数（2） （2）き裂先端の塑性域とエネルギー解放率（2） 4. 材料強度の統計的性質（10） （1）確率変数，確率密度関数，分布関数（1） （2）信頼度，故障率（1） （3）直列系と並列系の信頼度（1） （4）平均，分散，標準偏差，変動係数（1） （5）正規分布（1）（6）対数正規分布（1） （7）ワイブル分布（1）（8）確率紙（1） （9）分布の適合度の検定（1） （10）材料強度の統計的性質（1）			破壊力学を学ぶうえでの基礎として、き裂の形態や応力拡大係数、さらに破壊じん性について理解できる。 機械・構造物に用いる材料自体の強度や寿命は「ばらつき」を有する。そのため、機械・構造物の設計に際しては強度や寿命の分布特性を定量的に把握する必要がある。ここでは材料強度の統計的取り扱いに必要な確率統計論および信頼性工学取り扱いの基礎を理解できる。 学習・教育目標との関連（B-2）[B-2]			
	後期末試験						
	試験返却（1）						
評価方法	・評価の内訳は、定期試験を60％、演習課題のレポートを40％程度として評価する。 ・学習項目ごとの全体評価への重みは、学習内容の1～4に対してそれぞれ15%、35%、15%、35%として評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	材料力学Ⅱ（4年） 材料学Ⅰ（4年）――→ 材料強度学（5年）――→ 材料強度学特論（AS1） 機械要素設計Ⅱ（4年）						
教材	教科書：「材料強度学」，境田彰芳編著，コロナ社，ISBN978-4-339-04476，定価（本体2600円+税）						
備考	教科書は販売日に購入すること。						